

所 属	ライフデザイン学部ライフデザイン学科(子ども生活学専攻)		
主な担当科目	発達心理学 教育心理学 相談支援		
	氏 名	廣瀬 春次	
	フリガナ	ヒロセハルジ	
	職 位	教授	
	学 位 等	文学修士	
研究内容・社会業績等			
<p>子どもの心身の発達と教育に関する研究、心身の健康にかかわる研究および臨床を行っています。最近特に興味を持っていることは、発達障害の子どもへの教育・保育に関わる教育プログラムの開発、母親の子育てのための相談支援、対人コミュニケーション尺度の開発、専門職アイデンティティの形成に関する研究などです。</p> <p>所属学会：日本心理学会、日本教育心理学会、日本臨床心理学会、日本学校保健学会、日本認知行動療法学会、日本催眠医学心理学会</p>			
論文・書籍・資格等			
<ul style="list-style-type: none"> ・混合研究法の現在と未来 山口医学第61巻 第1・2合併号 2012年5月 ・精神看護学実習前後における看護大学生が精神科看護に対して抱く思いに関する分析 山口県立大学看護栄養学部紀要 電子版第5号 2012年3月 ・Effect of Journal Writing on Cognitive Function in Older People The Bukketin of the Yamaguchi Medical School. Vol. 61, 15-2, 2014 ・家族心理教育に参加した長期ひきこもり者の家族の心理的プロセス セーフティプロモーション学会誌第9巻1号 2016年9月 ・花粉症を持つ看護師の職場におけるストレス体験—混合研究法を用いて 山口県立大学看護栄養学部紀要 第10号 2017年2月 ・発達障害児や「気になる子」に関わる新任の幼稚園教諭および保育士の体験 至誠館大学研究紀要第5巻 2018年3月 ・病児保育における保育者の体験に関する質的研究 至誠館大学研究紀要第5巻 2018年3月 			
学生へのメッセージ			
<p>教育や保育、それに福祉や医療の分野は一種の対人援助職です。現在、これらの職種に対しては、一人ひとりの個性に合わせた支援が求められています。一定の理論的枠組みで人を理解し、決められた手順通りの方法で人を援助しようとしてもなかなかうまくはいきません。基本的な視点や姿勢は必要だとしても、自分や相手に合ったやり方で、日々の状況や行動に沿ったやり方で支援の方法を日々創造していくことが求められます。そのような柔軟性や創造性を学生の皆さんとともに私自身も培っていくことができれば良いなと思っています。</p>			